

東大見学会企業大学訪問感想

①ディレクトフォース

私の班は、ディレクトフォースで新日鐵住金株式会社を訪問しました。新日鐵住金株式会社は日本を代表する有名企業で、本社の社員の方々のお話を伺えると聞いた時には夢のようでした。ディレクトフォースでは、まず、社員の方々の紹介がありその後会社についての説明がありました。素材メーカーとはどのような会社かを分かりやすく教えていただきました。

次に、各テーブルごとで、社員の方の話を聞いたり、質問したりしました。最初に佐藤さんの話を聞きました。佐藤さんからは営業のことを教えていただきました。営業では受注を獲得するために他の会社に商品を売り込んだり、契約について話し合ったりしたそうです。佐藤さんは仕事をやる上で常にお客様のニーズがどこにあるのかを追究していたそうです。この話から、仕事ができる人は、大変な努力をしていると感じました。また、佐藤さんは仕事の面白さをこう語っていました。「仕事では正解が分からない。仲間と議論を重ねて正解に近い物を追究するところがおもしろい。」私は、この話から、学校では正解を出す力が求められるが、社会では正解のない問題を相手にベストな答えを出す力が必要とされると感じました。

次に、二高出身の千葉さんから高校時代の話をしてもらいました。千葉さんはバスで二高に通っていたのですが通学に片道一時間かかったそうです。しかも、空手道部に所属していてとても忙しかったそうです。しかし、千葉さんは部活と勉強の両立に力を入れ、見事東北大学の法学部に入ったそうです。また、法務の仕事について教えていただきました。法務の仕事は主に話し合いで得られた考えを書面に落とし込んだり、契約書の作成などだそうです。千葉さんは法務課では訴訟、クレームの対応もしたりととても大変だが、仲間との一体感が高まると達成感を感じると語っていました。社会では仲間と協力する力も必要とされると気付きました。さらに、メンバーで外国人と一緒に仕事をした経験もあるそうです。千葉さんは最初行くか迷ったそうですが、やらない後悔よりやった後悔のほうが良いと思いやってみようという気持ちで迷ったそうです。千葉さんは何事も迷ったらやってみるべきと言っていました。私はよく失敗を恐れて挑戦しないということがありました。確かにやって失敗することは次に繋がると感じました。これからは、迷ったら失敗を恐れずに挑戦しようと思います。

社員の方々とはなした後はテーブルごとに将来の仕事に役立つ学生時代の経験について話し合いました。始めに仲間と協力するチームプレイを学べる部活動の経験が役に立つという意見が出ました。次に、チームプレイが学べるのは団体競技だけで個人競技では何が学べるという反論が出ました。そこでみんなで話し合った結果、個人競技では自分が戦っていないときに仲間を励ましたりすることでチームプレイを学べるし、ライバルとしてお互いを高め合うことも出来るようになりました。また、普段の学校生活でもチームプレイは学べるという意見も出ました。さらに、学校で学ぶ英語は将来役に立つのではないかという意見も出ました。しかし、社員の人に仕事で英語を使うか尋ねたところ、使う人もいるがたいてい交渉などでは通訳が付くと言っていました。しかし、海外に転勤することもあるかもしれないのでやはり英語は出来た方が良いでしょうと思います。結論として、部活動の経験が一番役に立つとなりました。

私は今まで五教科などの勉強をすることだけが将来の仕事に役立つと考えていました。しかし、このディレクトフォースで部活動などの他の学校生活も役立つと気付きました。これからは、勉強はもちろん部活動などにもしっかりと取り組みチームワークなどを学んでいきたいと思っています。

②企業大学訪問

私たちの班は企業大学訪問で東京大学宇宙線研究所ガンマ線望遠鏡グループの中嶋大輔特任助教を訪問しました。

まず、中嶋特任助教に宇宙に興味を持ったきっかけを聞いてみました。中嶋特任助教は小さい時から宇宙が好きで、興味を持っていました。子供の頃から好きだった事を仕事に出来るなんて素晴らしいことであり好きこそもの上手なれだと実感しました。

次にガンマ線望遠鏡の研究を始めたきっかけを伺いました。中嶋特任助教は大学院を出た後ドイツに留学したそうです。そこでは、原子核などの研究をしていたそうです。それから、ガンマ線望遠鏡を面白そうだと思い研究し始めたと言っていました。私は研究者はあるていどお金や得られる名声などで研究するテーマを決めていると思っていました。しかし、そういうのを考えずに、ただ純粋に面白そうだからという理由で研究を始めた中嶋特任助教はとても尊敬できる人物だと感じました。私も将来研究者を目指しているのですが、何を研究しようかはまだ決めていません。お金や結果だけを追い求めずに私も中嶋特任助教のように興味を持ったことを調べてみたいです。

その後ドイツ留学した話を受けて英語の勉強法を質問しました。英語の映画やドラマを見て日常会話を勉強したそうです。英語はただ勉強するだけでなくそのように工夫することが大切だと思いました。

次に研究者という仕事についていくつか質問しました。

まず、どのような人が研究者に向いているか尋ねました。私は何事も素速く正確にこなす人などの答えを予測していました。しかし、アイデアが豊富にある人。また、根気強い人という答えが返ってきました。私は根気は強いほうなのですがアイデア性に欠けていると思います。だから、アイデアを豊富に出せるように高校や大学のうちから訓練していきたいです。

次に、研究者は結果を残さなければいけないかと質問しました。中嶋特任助教はこの世界は厳しい実力主義の世界結果を残さなければ生き残れないと言っていました。また、結果はとてもプレッシャーになるとも言っていました。研究者を目指している私は今まで研究者は安定した仕事だと思っていたので、とても衝撃的な言葉でした。しかし、厳しいのはどんな仕事でも同じだと思うので結果を残せるよう努力するしかないと思いました。

その後、失敗が成功に繋がった経験を尋ねました。中嶋特任助教は検出器を作っている時に間違ったら本来よりもいい出来になったという経験があったそうです。私は夏休みの自由研究で失敗したら嫌になって失敗と向き合わずその失敗を無駄にしていました。これからは、失敗しても何故失敗したなどを考え失敗を次に生かせるようにするとともに失敗を恐れずに何事にも挑戦したいと思います。

また、研究で行き詰まった時はどうするか聞きました。中嶋特任助教はずっとそれに取り組むのではなく趣味の植物の水やりをするなど何か気分転換をするそうです。気分転換によって新しい発想が出たり違う視点から物が見えるようになるとおっしゃっていました。私も将来何か行き詰まるようなことがあれば気分転換を大切にしたいです。

私は今まで研究者の仕事をあまりよく知らずに研究者になりたいと思っていました。しかし、今回、中嶋特任助教を訪問して、じかに研究者の方の話を聞いたことで、研究者の仕事の難しさや大変さ、また喜びややり甲斐を知ることができました。さらに、中嶋特任助教からは自分の興味のあることを好奇心にまかせて探求するという理想の研究者像を学ばせていただきました。私もそのような研究者になれるよう、これからもよりいっそう努力を重ねていきたいです。

